

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年8月10日
【四半期会計期間】	第105期第1四半期(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)
【会社名】	株式会社ショーワ
【英訳名】	SHOWA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	取締役社長 北 條 陽 一
【本店の所在の場所】	埼玉県行田市藤原町一丁目14番地 1
【電話番号】	(048)554 - 1151(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 真 野 洋 介
【最寄りの連絡場所】	埼玉県行田市藤原町一丁目14番地 1
【電話番号】	(048)554 - 1151(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 真 野 洋 介
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第104期 第1四半期 連結累計期間	第105期 第1四半期 連結累計期間	第104期
会計期間	自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高 (百万円)	48,540	61,766	215,889
経常利益 (百万円)	1,045	4,116	7,330
四半期(当期)純利益又は四半期純損失 ( ) (百万円)	579	3,341	2,549
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,688	6,942	1,207
純資産額 (百万円)	84,705	86,414	81,010
総資産額 (百万円)	158,246	160,246	155,540
1株当たり四半期(当期)純利益又は四 半期純損失( ) (円)	7.62	43.99	33.57
潜在株式調整後1株当たり四半期(当 期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	43.0	44.7	43.2

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれていません。

2. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しておらず、また、第104期第1四半期連結累計期間は、1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、当第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しています。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりです。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものです。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間(平成24年4月1日から6月30日までの3ヶ月間)の売上高は、二輪車用製品の販売は、前第1四半期連結会計期間末にベトナム子会社を連結化したことにより増加し、四輪車用製品の販売は主に日本において震災からの復興やエコカー補助金の復活による需要の急増及び北米における自動車市場の着実な回復に牽引され増加し、617億6千6百万円と前年同四半期に比べ27.2%の増収となりました。また、利益につきましては、売上変動・構成変化、生産体質の強化に伴う改善効果などにより、営業利益は、38億6千5百万円と前年同四半期に比べ525.1%の増益、経常利益は、41億1千6百万円と前年同四半期に比べ293.6%の増益、四半期純利益は、法人税等還付税額の計上等により、33億4千1百万円(前年同四半期は四半期純損失5億7千9百万円)となりました。

当社グループでは、平成24年4月より、従来の開発・生産・購買などの機能軸と製品・事業軸による「マトリックス経営体制」をさらに進化させるため、「二輪・汎用事業本部」、「四輪事業本部」、「ステアリング事業本部」及び「ガスピリング事業本部」の4つの事業本部を新たに組織いたしました。各事業本部に、事業運営に必要な権限と責任を付与して、事業ごとにグローバルな展開を迅速に行うこと、及び機能本部の専門性を最大限活用することにより、今後ますます激化が予想されるグローバル市場における競争力を高めていきます。

セグメント別の業績は次のとおりです。

なお、当社グループは、当第1四半期連結会計期間において報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しています。また、各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

(二輪・汎用事業)

二輪・汎用事業の売上高は、207億円(前年同四半期比7.2%増)となり、営業利益は、21億6百万円(前年同四半期比15.0%減)となりました。

(四輪事業)

四輪事業の売上高は、243億3千5百万円(前年同四半期比39.4%増)となり、営業利益は、9億4百万円(前年同四半期は営業損失10億4百万円)となりました。

(ステアリング事業)

ステアリング事業の売上高は、223億8千8百万円(前年同四半期比21.0%増)となり、営業利益は、1億8千9百万円(前年同四半期は営業損失9億1百万円)となりました。

(ガスピリング事業)

ガスピリング事業の売上高は、14億8千8百万円(前年同四半期比28.2%増)となり、営業利益は、4千1百万円(前年同四半期は営業損失4千2百万円)となりました。

その他

その他の売上高は、32億5百万円(前年同四半期比27.2%増)となり、営業利益は、1億6千4百万円(前年同四半期比16.6%減)となりました。

#### (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は1,602億4千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ47億5百万円増加しました。

流動資産は888億8百万円となり、前連結会計年度末に比べ42億4千9百万円増加しました。これは主に受取手形及び売掛金、有価証券の増加によるものです。

固定資産は714億3千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億5千6百万円増加しました。これは主に有形固定資産の増加によるものです。

流動負債は534億1千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億7千7百万円増加しました。これは主に未払金及び未払費用の増加によるものです。

固定負債は204億1千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億7千6百万円減少しました。これは主に長期借入金の減少によるものです。

純資産は864億1千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ54億4百万円増加しました。これは主に利益剰余金、為替換算調整勘定、少数株主持分の増加によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題についての重要な変更並びに新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)の研究開発費の総額は、15億7千9百万円となりました。

なお、当第1四半期連結累計期間においては、研究開発活動の重要な変更はありません。

(5) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、販売実績が前年同四半期に比べ著しく増加しました。これは、主に日本において東日本大震災からの復興等により主要得意先の生産及び販売が増加したためです。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	180,000,000
計	180,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	76,020,019	76,020,019	東京証券取引所 市場第一部	権利内容に何ら限定のない当 社における標準となる株式で す。 単元株式数は、100株です。
計	76,020,019	76,020,019		

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年4月1日～ 平成24年6月30日		76,020,019		12,698		13,455

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成24年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしています。

【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 52,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 75,945,600	759,456	
単元未満株式	普通株式 21,819		
発行済株式総数	76,020,019		
総株主の議決権		759,456	

【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ショーワ	埼玉県行田市藤原町 1 - 14 - 1	52,600		52,600	0.07
計		52,600		52,600	0.07

(注) 当第1四半期会計期間末の自己株式数は、52,659株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合0.07%)です。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しています。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けています。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	17,289	17,931
受取手形及び売掛金	32,382	34,567
有価証券	3,800	4,500
商品及び製品	5,697	5,273
仕掛品	3,202	3,709
原材料及び貯蔵品	15,725	15,504
その他	6,633	7,419
貸倒引当金	172	97
<b>流動資産合計</b>	<b>84,559</b>	<b>88,808</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	16,392	16,597
機械装置及び運搬具（純額）	26,807	27,598
その他（純額）	14,211	13,871
<b>有形固定資産合計</b>	<b>57,411</b>	<b>58,066</b>
<b>無形固定資産</b>		
のれん	1,660	1,693
その他	102	102
<b>無形固定資産合計</b>	<b>1,763</b>	<b>1,796</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	8,142	7,581
その他	3,680	4,009
貸倒引当金	17	17
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>11,805</b>	<b>11,574</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>70,981</b>	<b>71,437</b>
<b>資産合計</b>	<b>155,540</b>	<b>160,246</b>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	26,952	26,715
短期借入金	11,105	10,539
未払金及び未払費用	6,562	8,589
未払法人税等	1,265	1,421
製品保証引当金	1,538	1,566
賞与引当金	2,665	1,252
その他	3,045	3,328
流動負債合計	53,136	53,414
固定負債		
長期借入金	10,812	9,932
製品保証引当金	1,124	1,134
退職給付引当金	5,985	6,192
その他	3,471	3,157
固定負債合計	21,393	20,416
負債合計	74,529	73,831
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,698	12,698
資本剰余金	13,455	13,455
利益剰余金	52,440	55,079
自己株式	53	53
株主資本合計	78,542	81,180
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,174	2,658
為替換算調整勘定	14,515	12,151
その他の包括利益累計額合計	11,340	9,492
少数株主持分	13,808	14,726
純資産合計	81,010	86,414
負債純資産合計	155,540	160,246

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	48,540	61,766
売上原価	42,917	52,200
売上総利益	5,623	9,566
販売費及び一般管理費	5,005	5,700
営業利益	618	3,865
営業外収益		
受取利息	178	161
受取配当金	43	32
持分法による投資利益	127	143
為替差益	91	43
補助金収入	157	7
その他	46	37
営業外収益合計	644	424
営業外費用		
支払利息	183	152
その他	33	20
営業外費用合計	217	173
経常利益	1,045	4,116
特別利益		
固定資産売却益	3	35
段階取得に係る差益	61	-
特別利益合計	65	35
特別損失		
固定資産売却損	0	2
固定資産廃棄損	21	33
減損損失	21	10
為替換算調整勘定取崩損	-	253
特別損失合計	42	299
税金等調整前四半期純利益	1,068	3,852
法人税等	802	750
法人税等還付税額	-	1,051
少数株主損益調整前四半期純利益	266	4,153
少数株主利益	845	812
四半期純利益又は四半期純損失( )	579	3,341

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	266	4,153
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	61	516
為替換算調整勘定	1,405	3,091
持分法適用会社に対する持分相当額	78	213
その他の包括利益合計	1,422	2,788
四半期包括利益	1,688	6,942
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	301	5,189
少数株主に係る四半期包括利益	1,386	1,753

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第1四半期連結会計期間において清算手続中のショーワ・ヨーロッパ・ソシエタド・アノニマは、重要性が低下したため、連結の範囲から除外しています。

【会計方針の変更】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

有形固定資産(リース資産を除く)については、当社及び国内連結子会社は、主として減価償却方法を定率法(ただし、平成19年4月1日以降に取得した建物については定額法)によっていましたが、当第1四半期連結会計期間より定額法に変更しています。

従来、当社及び国内連結子会社の製品は総じて新型車の立ち上がり時に受注が多く年数の経過とともに受注減少となる傾向がありましたが、近年は、受注は特定車種の売れ行きに左右された過去に比べ安定的となる傾向が強まりつつあり、かつ、主要得意先においてグローバル車種の拡充や製品・部品の共有化が進んでいます。こうした経営環境のもとで、事業方針として、海外を含む生産拠点間で柔軟に機種移管ができるよう生産ラインの汎用化を進めてまいりました。さらに当期首より事業本部制を導入し、各生産拠点で長期安定的生産を推進していくこととしました。これを契機として有形固定資産の使用状況を見直した結果、今後の設備の安定的な稼働並びに投資効果の収益に対する長期安定的な貢献が見込まれるようになりました。

これにより耐用年数にわたり均等償却による原価配分を行うことが有形固定資産の使用の実態をより適切に反映できるため、減価償却方法を定額法に変更することが合理的であると判断しました。

この結果、従来の方法によった場合に比べ、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益が138百万円それぞれ増加しています。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
荷造運賃	691百万円	905百万円
従業員給料手当	888	1,107
研究開発費	1,389	1,579

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりです。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
減価償却費	2,206百万円	2,103百万円
のれんの償却額	9	24

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	759	10.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)2	合計	調整額 (注)3	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)4
	二輪・ 汎用事業	四輪事業	ステアリン グ事業	ガススプリ ング事業	計				
売上高 外部顧客への 売上高	16,619	14,726	14,366	497	46,209	2,331	48,540	-	48,540
セグメント間 の内部売上高 又は振替高 (注)1	2,697	2,735	4,140	663	10,236	189	10,425	10,425	-
計	19,316	17,461	18,506	1,160	56,446	2,520	58,966	10,425	48,540
セグメント利益 又は損失( )	2,476	1,004	901	42	528	197	725	107	618

(注) 1. 報告セグメント内の内部取引を含んでいます。

2. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車販売等を含んでいます。

3. セグメント利益又は損失( )の調整額は、内部取引消去及び未実現利益消去等です。

4. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)2	合計	調整額 (注)3	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)4
	二輪・ 汎用事業	四輪事業	ステアリン グ事業	ガススプリ ング事業	計				
売上高 外部顧客への 売上高	18,156	20,567	19,167	791	58,683	3,082	61,766	-	61,766
セグメント間 の内部売上高 又は振替高 (注)1	2,543	3,767	3,220	696	10,228	122	10,351	10,351	-
計	20,700	24,335	22,388	1,488	68,912	3,205	72,117	10,351	61,766
セグメント利益	2,106	904	189	41	3,241	164	3,405	459	3,865

(注) 1. 報告セグメント内の内部取引を含んでいます。

2. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車販売等を含んでいます。

3. セグメント利益の調整額は、内部取引消去及び未実現利益消去等です。

4. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、「日本」、「北米」、「南米」、「アジア」及び「中国」の5つを報告セグメントとしていましたが、「第一部（企業情報）第2（事業の状況）3（財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析）」に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間より「二輪・汎用事業」、「四輪事業」、「ステアリング事業」及び「ガススプリング事業」の4つを報告セグメントとすることとしました。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものです。

各セグメントの主要製品は以下のとおりです。

セグメントの名称	主要製品
二輪・汎用事業	二輪車用ショックアブソーバ、船外機用パワーチルトトリム、シリンダ、ポンプアンドモータ
四輪事業	四輪車用ショックアブソーバ、プロペラシャフト、オートマチックトランスミッション部品、デファレンシャルギヤ、その他駆動系部品
ステアリング事業	電動パワーステアリング、油圧パワーステアリング、CVTポンプ
ガススプリング事業	ガススプリング

### (会計方針の変更)

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)に記載のとおり、当社及び国内連結子会社は、当第1四半期連結会計期間より有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法を定率法(ただし、平成19年4月1日以降に取得した建物については定額法)から定額法へ変更しています。この結果、従来の方法による場合に比べ、当第1四半期連結累計期間のセグメント利益は「二輪・汎用事業」で10百万円、「四輪事業」で47百万円、「ステアリング事業」で65百万円、「ガススプリング事業」で0百万円、「その他」で14百万円それぞれ増加しています。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり四半期純利益又は四半期純損失( )	7円62銭	43円99銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益又は四半期純損失( ) (百万円)	579	3,341
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益又は四半期 純損失( ) (百万円)	579	3,341
普通株式の期中平均株式数 (千株)	75,967	75,967

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しておらず、また、前第1四半期連結累計期間は、1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年 8月10日

株式会社ショーワ  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 太田 荘一 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 耕田 一英 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ショーワの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ショーワ及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しています。
- 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。